

2020.10.25 年間第 30 主日

たいせつな掟

マタイ福音書 22:34-40

(そのとき) ファリサイ派の人々は、イエスがサドカイ派の人々を言い込められたと聞いて、一緒に集まった。そのうちの一人、律法の専門家が、イエスを試そうとして尋ねた。「先生、律法の中で、どの掟が最も重要でしょうか。」イエスは言われた。「『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』これが最も重要な第一の掟である。第二も、これと同じように重要である。『隣人を自分のように愛しなさい。』律法全体と預言者は、この二つの掟に基づいている。」

説教

きょうの福音もイエスとユダヤ人指導者たちとの対話です。パリサイ派学者が律法の中でどの掟が最も重要ですか？とイエスの律法理解を試すような質問をします。イエスは「神を愛し、隣人を愛せ」と答えました。

この掟を守ることができればわたしたちはよい世界をつくることができます。隣の人を愛すれば、その隣の人も隣の人を愛し、またその隣の人も隣を愛し、互いが愛し合う世の中になります。社会での悲惨な事件はなくなり、国同士の争いごととも解決し平和がおとずれます。でも実際には争いごとなくなることはありません。なぜ世界が平和にならないのか。それは「神を愛し、隣人を愛せ」この掟を守ることができないからです。どうして守れないのでしょうか。

だれでも自分はかわいいけれど、他人はかわいいとは思えない、よく知らないのにかわいいなんて思えない。では知るとかわいくなるかというと、知れば知るほど憎たらしくなることもあります。自分だけしか愛していない、自分の愛する人しか愛さない、キライな人は嫌い、だから愛さない、正直に自分をふりかえってみるとこのような自分が見えてきます。

仮に、わたしが人間そっくりのロボットを作ったとしましょう。そしてそのロボットのAI機能の最重要事項として「神を愛し、隣人を愛せ」をプログラムします。最も重要な掟として「神を愛し、隣人を愛せ」を埋め込んでしまうのです。この人間型ロボットのつくる社会は素晴らしい世界になるのではないのでしょうか。神を愛し、隣人を自分のように愛するように神が人間を創造すれば世界は現在とは違った世界になっていたはずですが、でも現実の世界はそうなってはいません。わたしたちは「神を愛し、隣人を愛」するようには造られなかったようです。しかし、希望はあります。

はるかなむかし、エルサレムでイエスがパリサイ派の学者との対話のなかで神の掟を見事に要約して教え直してくれた記録が希望です。イエスの口から出たことば「神を愛し、隣人を愛せ」がわたしたちの希望です。わたしたちはこの掟を守るようにあらかじめ造られたわけではありませんでした。しかしイエスのことばによって「神を愛し、隣人を愛」する人になることができます。誰の口からでたわけでもなく、イエスが最も重要な掟であると宣言したことで、わたしたちのところに届くことばとなりました。わたしたちは少しずつでもこれに近づくことでよりよい世界を自分たちのものにすることができます。
